

藪を漕いで湿原へ

## 東北 葛根田川 北ノ又沢から栗木ヶ原湿原

中村、坂村、福永他

【日時】 2011年7月16(土)～18日(月)

【メンバー】L藤岡、田村、中村、坂村、福永

7/16(土)晴れ 滝ノ上温泉～滝ノ又沢の手前

年末の乳頭温泉以来の盛岡IC。予想通り夜明けとともに現地入り。今回は5人全員が運転できたので、1人1区間運転するのみで済んだ。滝ノ上温泉の駐車場脇のトイレに併設された休憩所で仮眠を取る。

昨今の『脱原発』で話題となっている自然エネルギー。ここには地熱発電所がある。熱を発電設備に送る長大なパイプラインが林道の脇を走る。一度作れば、いくらでも発電できそうだが、温泉の成分で鋼鉄製の設備の腐敗が激しく、意外と保守コストがかかるのかもしれない。と考えているうちに林道が藪で覆われるようになった。2つの堰堤を越えたところから入渓。

最初は単調なゴーロ歩き。しばらく歩くと、右岸から大きなナメ滝が落ちている。次は左岸からサイズは小さいがきれいなナメ滝で、明通沢。ここから沢は一段と美しさを増し、1:1に分かれる大石沢出合直前がハイライトとなる。



この区間で、竿を出してみる。大きな淵の駆け上がりを狙うと1匹ゲット。竿を畳んでいると、後続の5人パーティが追いつく。「トマの方ですか?」「そうですけど・・・」なぜ、我々の名前を知っているのだろう。聞くと、銀座山の会の一行で、メンバーには今井さんのご主人もいらっしゃる。やさしそうな方だった。

時間がまだ早いので、中ノ又出合周辺で再び竿を出す。私と坂村さんとで、少し中ノ又沢に入ってみた。簡単に登れる滝がいくつかあり、釜にルアーを投げ入れると、イワナが追いかけてくる。針には掛けたものの、取り込むときにばらしてしまう。もったいないことをした。右からの枝沢が入るところからは平凡な流れとなるので、そこで打ち切り、出合いに戻る。結局ここで釣った人はおらず、まだ私の1匹だけ。

滝ノ又沢との出合には、広いテン場がありそうだが、銀座山の会も含めて、2～3パーティが

先行しており、多分場所はなかりと、その手前でテン場を物色。いきなり上物のテン場が見つかるが、まだ2時半、まだ出てくるだろうともう少し先に行くことにするが、これが失敗だった。なかなか適地が見つからず、無理やり藪の中を探して、何とか見付けた。河原が狭く感じたが、焚き火に火をつけるころには、落ち着いたテン場となった。

軽く一杯飲んだあと、私と田村さんは釣りに出かける。私はどんどん釣り上がり、滝ノ又沢出合いを越えた大きな釜まで行った。案の定、銀座山の会パーティは二俣で幕を張っていた。キャンプ場とも思えるくらい平らに整地されたテン場だった。別の二人パーティはここにはおらず、もっと先に行ってしまったようだ。少し銀座山の会の方と、お話をした後、テン場に戻る。

私と、田村さんがイワナを釣り上げて帰ってきた。昼に釣ったのを合わせて、焼きと唐揚げにして食べた。イワナの唐揚げは初めて食べたが、短時間で調理できてなかなかうまい。こうして1日目の夜は更けていった。(中村)

7/17(日)晴れときどき曇り 北ノ又沢右俣～大白森～明通沢930m二俣

7時に出発し、滝ノ又沢出合いには10分後に着いた。計画ではこの辺りに泊まる予定だったが、先行パーティで一杯で私たちが泊まるスペースはないだろうと考えて下流に泊まった。実際見ると結構広い場所で、「ここでも泊まれたね～」なんて話しながら通過した。奥の二俣の手前の小滝から25m大滝まではのんびりと釣りをしながら遡行し、その日の夕げを潤すのに十分な数が釣れた。

7:55に15m滝に到着した。釜で田村さんと中村さんが竿を振っている間、他のメンバーは高巻きのできそうな場所を探した。少し戻った右岸側に緩い尾根があり、私が軽く偵察に行っている間に藤岡さんが急な斜面を登ってしまった。すっかりのんびりモードになっていた福永さんと私はできるだけ緩いところから登りかかったが、そうこうする間にザイル



釣れた♪

が下りてきたので覚悟を決めて登った。登ってみると見た目ほど悪くなく、むしろできるだけ小さな高巻キルートを選んだ藤岡さんはさすがだと思った。それからすぐに地図上で2つ目の滝マークの滝を通過したが、思ったほど大きなものではなかった。地図の滝マークは何を基準に付けているのだろうかということが話題になった。その先は綺麗なナメ床になり、先ほどの登攀のテンションはすっかり消えて再びのんびり気分になった。

10:55に二俣を通過してからは、大きなナメ滝(大きさを記録し忘れ)、7mナメ滝、2段12m滝(1段目ナメ)と、滝が連続して現れた。2段の滝については、1段目は右岸側を簡単に越せたが、2段目はいかにも難しそうで、藤岡さん1人右岸側を登り、他のメンバーは中村さんリードで左岸側を巻いた。藤岡さんの登った側は、上部がかなりいやらしかったらしい。いなくてよかった。その後、7mの滝は左岸側を巻き、4m滝は直登した。

等高線の間隔が広くなり、沢が細く藪が煩くなってきたので大白森に近いことは分ったが、どこ

まで行ってもウネウネとした細い沢が続くので、方角を定めて藪に突入することにした。誰かが「八幡平はタケノコの聖地」って言ってたなあと思ひながら、根曲がり竹をかき分けたり押し戻されたりしながら進んだ。1時間は藪を進んだらうか、もう湿原には出合わないのではないかと不安に思っていたら、突然目の前が開け、緑の草原とニッコウキスゲの群落と心地よい風が私たちを出迎えてくれた。いっきに全員のテンションが上がり、あちらこちらから歓声と笑い声とカメラのシャッター音が聞こえた。 束の間の夢は、太陽が雲に隠れる頃終わった。明通沢の支流に辿り着くまでまた藪か…。しかしこちら側の藪は先ほどより薄く、うんざりする前に沢に下りることができた。二俣に着くまでは滝が連続した。7m, 5 m, 6 mの滝はそれぞれクライムダウン、3 mの滝は中村さんが1人飛び込んだが、他のメンバーは夕刻間際のこの時間(16時頃)に全身ずぶ濡れにはなりたくないという右岸側を巻いた。続く4 mの滝も右岸側を巻き、12mの滝は左岸側を懸垂下降した。続く5mの滝も左岸側を懸垂し、少し行くと二俣に到着した。ここは大水のときには水の通り道になっていることが明らかな漂流物満載の怪しげな場所だったが、いざとなったら高台に避難できることを確認して、本日の幕場に決めた。(坂村) 追記…漂流物をかき集めて作ったベッドは寝心地がとても良かった。

7/18(月)晴れときどき曇り 明通沢960m左岸枝沢～  
栗木ヶ原湿原～滝ノ上温泉

6時前に出発。明通沢の右俣を10分も行くと右側から流れ込む支流に到着。小さい流れだが水はそこそこある。15分程で二俣にでる。

ここも右にとり覆いかぶさる笹藪をかき分けながら、南下を開始。今日は昨日より短く湿原にでた。先頭の中村さんは湿原に寝ころび、寛いで池塘を覗き込んでいる。



ニッコウキスゲがお出迎え



5～7センチ位の小さな生き物が自在に泳ぎ回っている。

警戒心が無いのか覗き込むと寄ってきて指をだすと手をかけて休憩する。

この愛らしい両生類はイモリ。イモリがこんなに可愛い生物とは知らなかった。

みんな飽きずに暫く見いていた。

下山路の入り口は、しっかりと踏みあとがあり、約一時間で林道にでた。



強く眩しい日差しの下、地熱発電所を横目で見ながら、美しい湿原のイモリはここにずっといるのだろうかと思ったりしながら葛根田を後にした。(福永)

(田村の感想)

昨年二度計画して行けなかった葛根田、ようやく完遂することができて、正直ホッとしています。手頃な難しさの沢と二つの美しい湿原で実にいいコースでした。それによい天気と楽しい仲間も揃っていて、言うことなしですね。こんな、心に残る沢登りをこれからも続けたいと思います。

(藤岡の感想)

葛根田に行こうとしたのは過去2回。今回改めて地図を眺めているとどうしても栗木ヶ原湿原が気になったので、沢を繋いで行ってみました。2度目の藪を抜けて開けた空間に出てみると、そこここに池塘が点在する、広くそして清々しい湿原だった。

あまりきちんと下調べをしておらず何もないと思っていた北ノ又沢の本流は適度に滝のある面白い沢だった。大白森へはとんでもなく蛇行した源流で1時間近く藪を漕いでしまい湿原が枯れてしまったのかとやや焦ったが、花の咲く原っぱに出たときにはほっとした。帰ってからあらためて記録を良く読むと左俣に入るとすんなり湿原に出たらしい。

まあ苦労した方が綺麗な景色に出会えた時の感動も大きいので良しとしましょう。

天候にもメンバーにも恵まれて、良い沢旅ができました。



何を覗いてるんでしょうか？



池の中ではイモリちゃんが、気持ち良さそうに泳いでました～

【グレード】3級

【地形図】 曲崎山、秋田駒、篠崎、松川温泉

【行程】7/16(土) 滝ノ上温泉駐車場(8:10)～沼ノ沢出合(12:40)～滝ノ又沢手前BP(15:00)

7/17(日) BP(7:00)～大白森(14:05-14:25)～明通沢二俣BP(16:30)

7/18(月) BP(6:00)～栗木ヶ原湿原(7:45-9:00)～林道(10:15)

2011/7/16-18  
 L 藤園、田村、中村  
 坂村、福永  
 作図：藤園

